

# 2018年度早稲田大学史学会大会ご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。このたび、下記のとおり  
2018年度早稲田大学史学会大会を開催いたしますので、ご案内申し上げます。  
なにとぞご出席くださいますようよろしくお願い申し上げます。 敬具

早稲田大学 史学会  
会長 近藤 二郎

**日時** 10月6日(土) 午前10時より

**会場** 早稲田大学文学学術院校舎

◎**研究発表** (10:00~12:30) 文学学術院校舎 各会議室

## 日本史部会 33号館3階 第1会議室

- |                                 |               |       |
|---------------------------------|---------------|-------|
| ① 神功皇后像の展開                      | 学部学生          | 相良海香子 |
| ② 平安時代の衣服贈与—男性に贈られる「女装束」を中心に—   | 大学院学生         | 生江麻里子 |
| ③ 老中招請にみる幕藩関係—元文期岡山藩池田家の事例を中心に— | 大学院学生         | 池ノ谷匡祐 |
| ④ 地頭請と下地中分                      | 慶應義塾普通部<br>教諭 | 高橋 傑  |

## 東洋史部会 39号館5階 第5会議室

- |                                  |                     |       |
|----------------------------------|---------------------|-------|
| ① 蜀漢・姜維の北伐をめぐる—主として蔣琬・費禕輔政期を中心に— | 東京都立日比谷高<br>等学校教諭   | 野中 敬  |
| ② 五代宋初における南郊儀礼の変化をめぐる            | 長野工業高等専門<br>学校一般科教授 | 久保田和男 |
| ③ 日韓会談と韓国社会の文化財認識の変化             | 国民大学校日本学<br>研究所研究員  | 柳 美那  |

## 西洋史部会 33号館16階 第10会議室

- |   |       |       |
|---|-------|-------|
| ① 古代ローマの記録破壊から見る政治力学：コンモドゥスと二世紀末の元老院                    | 本学講師  | 福山 佑子 |
| ② 中世地中海世界のシー・パワーにおけるシチリア王国の港湾行政—晩禪時代(1282-1377)の人事文書から— | 大学院学生 | 高橋 謙公 |
| ③ フランス第三共和政とボナパルト派左派—1880年代のジェローム派を中心に—                 | 大学院学生 | 湯浅 翔馬 |

## 考古学部会 39号館6階 第7会議室

- |                                  |       |       |
|----------------------------------|-------|-------|
| ① 東国古代寺院における瓦生産                  | 大学院学生 | 谷川 遼  |
| ② 信濃国分寺の造瓦体制                     | 大学院学生 | 堀川洗太郎 |
| ③ 元代墓制の地域性                       | 大学院学生 | 呉 心怡  |
| ④ サンボー・プレイ・クック遺跡群出土土器の型式学・編年学的研究 | 大学院学生 | 横山 未来 |

◎**総 会** (13:30~14:00) 文学学術院校舎 33号館3階 第1会議室

◎**全体会** (14:00~18:00) 文学学術院校舎 33号館3階 第1会議室 (右に詳細)

# 早稲田大学史学会 公開講演会

早稲田大学史学会では、本年度より本学へ新たに嘱任された田中史生先生・中澤達哉先生に、ご自身の研究テーマや歴史観について語っていただくことで、歴史学・考古学の一層の魅力を提示する機会を提供できればと考えております。多くの方々のご来場をお待ちいたしております。

日時：10月6日（土） 14:00～18:00

場所：文学学術院校舎 33号館3階 第1会議室

会長挨拶・趣旨説明：近藤 二郎

14:00～14:10

講演：

## 1. 田中 史生（日本史）

### 「帰化人と渡来人」

14:10～15:40

「帰化人」の語をやめて「渡来人」の語を用いるべきだという見解が提起され、半世紀ほどが経った。現在では、ほとんどの教科書や概説書が渡来人を採用している。しかし、日本古代史研究において、この論争は今も続く難しい問題である。ふりかえるに「帰化人・渡来人論争」とでもいうべきこの論争は、その背後に日本とは何か、日本人とは何かという問いを抱えた論争として起こった。「帰化人・渡来人論争」は古代史研究の問題にとどまらない、「日本史」の枠組みへの問いを抱えた論争である。けれども近年の議論は、こうした背景がほとんど留意されずに進んでいるように思われる。そこで本報告では、近代日本が古代の帰化人や渡来人をどのようにとらえてきたかをふまえたうえで、あらためて古代史料に立ち返り用語の問題について検討を加えていく。これらを通して、未だ決着をみない帰化人・渡来人論争の問題点や課題を考えてみたいと思う。

## 2. 中澤 達哉（西洋史）

### 「ハンガリー初期ジャコバン主義の「王のいる共和政」理論—主権・国民・連邦制」

16:00～17:30

本報告は、フランス革命期ハンガリーの初期ジャコバン主義を、「王のいる共和政」論の存在に焦点をあてつつ、縦軸としては中世後期以来の選挙王政的伝統、横軸としてはフランス・ジャコバン主義の受容と変容を重視しながら検討する。これにより、ハンガリー・ジャコバン主義は、世襲君主の強権により啓蒙改革を断行するというハプスブルク朝のヨーゼフ主義の土壤に、イギリスの制限君主政およびフランス・ジャコバン主義の共和思想が融合するかたちで出現したことを指摘する。また、選挙王政を採った中世ハンガリー王国のいわゆる共和主義的伝統を尊重しつつも、ハプスブルク朝による封建制の撤廃をめざす啓蒙改革を支持する過程で「世襲王政の共和国」論が出現するに至る仔細を検討する。以上を受けて、従来の近代共和政史研究に対して、「王のいる共和政」論、つまり「選挙王政の共和国」と「世襲王政の共和国」という二つの政体・国家思想の存在を提起したい。

◎懇親会（18:30～20:30）

会場：『高田牧舎』

会費：4,000円（院生3,000円、学生2,000円）

（懇親会会場略図）

